

地域再生計画評価調査（地方創生拠点整備交付金事業効果検証調査）

地域再生計画の名称	「いまばりサイクルシティ構想」を核とする広域観光推進計画	施設整備計画の名称	瀬戸内しまなみ海道沿線(大三島)における滞在・交流拠点整備事業	令和元年度評価
総合戦略における位置づけ	基本目標3. だれもが訪れたいと感じる魅力あふれるふるさとを創る 具体的施策(ア)サイクルシティ構想の推進 ①サイクルステーション構想推進 基本目標3. だれもが訪れたいと感じる魅力あふれるふるさとを創る 具体的施策(ウ)広域観光周遊ルートの形成 ①広域観光周遊ルートの形成 基本目標4. 中心部と周辺部が連携した日本でいちばん住みたい地域を創る 具体的施策(イ)日本でいちばん住みたい地域づくり ②小さな拠点を核とした地域づくり			

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

評価指標		基準年数値	目標数値、実績値及び目標数値に対する達成度							達成度についての分析
				2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	最終年目標数値 2020年	
目標1	観光入込客数	2,841 千人	目標	+29 千人 (2,870 千人)	+30 千人 (2,900 千人)	+40 千人 (2,940 千人)	+60 千人 (3,000 千人)	+80 千人 (3,080 千人)	+239 千人 (3,080 千人)	目標1の観光入込客数については、目標に対する達成度は、29.5%となった。 これは、2018年は7月豪雨の影響を受けて減少していたが、例年並みに回復してきている。 目標2のレンタサイクルの利用件数については、目標に対する達成度は、81.4%となった。 これについても、2018年は豪雨や台風の影響により減少していたが、ほぼ例年並みに回復してきている。 目標3の外国人宿泊者数については、目標に対する達成度は、127.3. 8%となった。 これについては、様々な主体によるPRや、しまなみ海道サイクリングが欧米で紹介され、魅力的な旅行先として周知されたことが増加に繋がったと考えられる。 目標4の施設利用収入については、目標に対する達成度は、393. 6%となった。 これについては、2018年のリニューアルオープンが4月末となり、1～4月分の利用収入がなかったことで落ち込んでいたが、2019年は一年を通して営業出来たことに加え、マスコミ等の情報発信の効果により収益の増加に繋がったと考えられる。
			実績	▲60 千人 (2,781 千人)	+37 千人 (2,818 千人)	▲239 千人 (2,579 千人)	+177 千人 (2,756 千人)		▲85 千人 (2,756 千人)	
			達成度	▲206.9%	123.3%	▲597.5%	295%		▲35.6%	
目標2	レンタサイクルの利用件数	67,012 台	目標	+2,988 台 (70,000 台)	+4,000 台 (74,000 台)	+5,500 台 (79,500 台)	+7,200 台 (86,700 台)	+7,500 台 (94,200 台)	+27,188 台 (94,200 台)	
			実績	▲4,664 台 (62,348 台)	+4,024 台 (66,372 台)	▲8,068 台 (58,304 台)	+5,860 台 (64,164 台)		▲2,012 台 (64,164 台)	
			達成度	▲156.1%	100.6%	▲146.7%	81.4%		▲7.4%	
目標3	外国人宿泊者数	15,540 人	目標	+320 人 (15,860 人)	+340 人 (16,200 人)	+360 人 (16,560 人)	+400 人 (16,960 人)	+440 人 (17,400 人)	+1,860 人 (17,400 人)	
			実績	+2,837 人 (18,377 人)	+2,529 人 (20,906 人)	+6,765 人 (27,671 人)	+5,095 人 (32,766 人)	人	+17,226 人 (32,766 人)	
			達成度	886.6%	743.8%	1,879.2%	1273.8%		926.1%	
目標4	施設利用収入	26,000 千円	目標	+2,000 千円 (28,000 千円)	+2,000 千円 (30,000 千円)	+6,000 千円 (36,000 千円)	+3,000 千円 (39,000 千円)	+4,000 千円 (43,000 千円)	+17,000 千円 (43,000 千円)	
			実績	+1,050 千円 (27,050 千円)	▲3,458 千円 (23,592 千円)	▲554 千円 (23,038 千円)	+11,208 千円 (34,246 千円)		+8,246 千円 (34,246 千円)	
			達成度	52.9%	▲172.9%	▲9.2%	373.6%		48.5%	

事業の目的	近年急増している外国人サイクリストを中心とした観光客の島しょ部における周遊・滞在拠点を整備するため、大三島ふるさと憩いの家(大三島宗方)を改修して集客力と拠点性の強化を図るもの。		事業費	117,149千円
施設整備の内容	【拠点機能強化のための建物改良】 国内外からサイクリストや観光客を呼び込み、島しょ部における滞在・交流拠点として機能強化を図るため、2階建て棟の2階部分の一部を食堂兼交流スペースとして利活用できるよう屋根・床下の改修と耐震補強工事を実施した。2階建棟の屋根は瓦屋根から板金屋根に改修して軽量化し、耐震性能を高めた。 【入浴施設の増設】 海を眺めながら入浴できる風呂棟(セミパブリックバス)を増設し、風呂棟と本棟(2階建て棟)の間には、景観に配慮した誘導路として渡り廊下(石畳)を設置し、利用者の利便性を向上させ、滞在拠点としての機能強化と誘客促進、交流機会の拡大を図る。 【インバウンド誘客のための模様替え】 客室のフローリング化や来訪者も利用できる洋式トイレの増設、交流スペースの設置、食堂の内装や照明等の改修により、宿泊・利用環境を整備することで滞在拠点に必要な快適性を高め、インバウンドの誘客促進を図る。			
事業効果	廃校となった木造の小学校を耐震化し、宿泊施設及び地域の交流拠点としてリノベーションを行うとともに、海に見える風呂棟の新設による新たな観光機能を付加することで、瀬戸内しまなみ海道におけるサイクリストやインバウンドの滞在・周遊の拠点や地域住民の交流の場として利用されることで、地域の活性化に繋げることができた。			

施設の活用状況	
・令和元年の総宿泊者数は3,000人（平成30年：2,296人）、そのうちサイクリストは253人、外国人宿泊者数は131人 ・食堂や2階の交流スペース等を有効に活用し、みんなのワイナリー建設説明会（4/16 10名参加）やワイン講習会（5/14 5名参加）、地域の伝統行事である宗方權伝馬（8/13 15名参加）、広島・愛媛両県知事による広島・愛媛交流会議（10/11 22名参加）、猪レモン鍋とワインマリージュの会（12/14 29名参加）などのイベントが開催され、地域住民の交流の場として地域の活性化に繋げることが出来た。 ・R1.9月に完成したみんなのワイナリーや伊東建築塾との連携事業が今後も期待される。 ・海が見える展望風呂は施設の特徴であり、人気を呼んでいる。また、一部客室の洋室化、洋式トイレの設置により以前より快適性が増した。 ・雑誌への掲載6件、テレビ番組での紹介が3件ほどあり、廃校を活用した宿泊施設の魅力を国内外に発信した。	

評価及びそれを受けての市の方針

外部有識者による評価	議会からの意見	今後の方針、改善点など
☒ 総合戦略のKPI達成に有効であった ☐ 総合戦略のKPI達成に有効とは言えない （主な意見） ・KPIの達成状況については、災害の影響を受けた年を除いて達成できており、様々な主体によるPRや施設整備による効果が表れている。 ・世界的な建築家の携わったリノベーションなので、建築を学ぶ学生などに宿泊してもらえるような、建築面を押し出した活用方法も考えてはどうか。 ・大三島から島しょ部、今治市中心部への人の流れを創ることができるよう、整備された拠点を利用しての情報発信に期待したい。	施設の稼働率が低いので、稼働率アップに努めてほしい。	・廃校を活用した宿泊施設という非日常空間が話題を呼び、テレビや雑誌媒体等への露出の機会が増加したことが宿泊者数の増加に繋がったと考えられるため、今後もメディアを上手く活用した効果的な広報に取り組みたい。 ・引き続き、伊東建築塾やみんなのワイナリーとの連携を深め、地域住民や移住者が集う交流の場となり、しまなみエリアを訪れる観光客やサイクリスト、外国人観光客の滞在・周遊の拠点として、イベント等の開催を促進する。